

# 令和7年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和8年1月31日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受け）
基礎・基本の定着とかがわり合 う力の育成	基礎・基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>「読む・書く・話す・計算する」の確実な定着を図る。</li> <li>「わかった、できた」という喜びのある授業を実践する。</li> </ul>	A	A	支援員補助、漢字・計算チャレンジテスト等が、基礎学力の定着につながった。家庭での学習の様子がBランクのため、家庭学習の充実を図りたい。 「大村っ子たいむ」を通して、子どもだけでなく職員も、話し合いの基礎基本を身につけていった。授業では「稲穂の発問」を通して職員全員で授業改善を進めた	A	基礎学力の定着や「聴く・話す」指導について評価する。 宿題については、子どもが自主的に行えるような工夫をし、家庭と一体となって取り組んでほしい。	よい評価をいただいた取り組みについては、このまま継続をしていく。 授業中の子どもの考えを深める「稲穂の発問」について、来年度も全職員で研修を深め、授業改善につなげていく。
	「聴く、考える、話す」力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の言葉を正しく「聴く」力、相手に正しく伝える「話す」力を育む。</li> <li>仲間と学び合い、考えを深め合う力を育む実践に取り組む。</li> </ul>	A					
互いに思いやり、認め合い、励まし合える集団作り	温かな学級集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の児童の多様性に対応し、個を育て温かな集団をつくる実践に取り組む。</li> <li>さわやかなあいさつの定着を図る。</li> <li>行事に向けての取り組みで学級をつくる。</li> </ul>	A	A	一人一人のよさを大切にした学級づくりを進めるとともに、子どもが考えて動く場を意図的に設定してきた。授業や行事・委員会等で児童主体の企画・運営を心がけ、一定の成果を得た。互いに認め合い協力する姿が見られた。あいさつ指導は、今年度もB評価ではあった。今後も粘り強く取り組みたい。	A	授業や行事の様子から子どもたちの成長を感じる。高学年の班長が挨拶をする、下学年もい挨拶ができています。園の方でも挨拶指導に取り組み小学校へつなげたい。	子どもが考えて動く場を来年度も意図的に設定する。授業や行事で子どもが主体的に取り組み、達成感を感じられるよう努めたい。高学年がよい手本となり学校をリードしていきたい。
	子ども主体の活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが考えて動く場を授業や特別活動等で意図的に設定する。</li> <li>目標の振り返りを行い、仲間とともに問題解決できるようにする。</li> </ul>	A					
健康・安全への意識向上	体力づくり運動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>外遊びや体力づくり運動を継続し、運動を楽しむことが好きな子どもを育てる。</li> </ul>	A	A	外遊びの時間の確保、体力づくりのための強調週間により、運動に親しめた子どもが多い。 依然メディアとのかかわり方に課題が残る。メディアコントロールチャレンジの活用や授業、保護者への協力依頼等を通して、メディアとのかかわり方を考えさせたい。食事や歯磨き指導など、養護教諭中心に日頃から健康への意識を高めていきたい。	A	体力づくりの取り組みを評価する。校区内に、道が狭く危険な場所があり、自転車の乗り方等心配である。自分の安全は自分で守ることができるよう今後も指導を続けてほしい。	下校時刻に合わせて学年団の集団下校を行い、下校時の安全意識を高めていく。メディアとのかかわりかたについては、1年を通して計画的に指導するとともに、保護者の理解と協力を得られるように、学校から積極的に情報発信や啓発活動を行っていく。
	健康づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアとのかかわり方を考え、生活リズムを整え、安定した生活ができる実践力を高める。</li> <li>健康によい食事のとり方や歯磨きの仕方などを理解し、自ら管理していく能力を身につける。</li> </ul>	B					
	安全な生活に対する意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分の命は自分で守る」（災害・交通事故等）意識と実践力を高める。</li> </ul>	A					
信頼される教師集団の育成	子どもと接する時間を生み出す改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>「大村」の地域素材を取り入れた授業を1単元実践する。</li> <li>現職研修テーマに基づき、授業力向上を旨とした校内研修を推進する。</li> <li>多忙化解消の取り組みを積極的にすすめて、教職員の負担を軽減することで心と体の健康を保つ。</li> </ul>	A	A	授業だけでなく現職研修にも外部講師を積極的に招き、地域素材を生かした単元づくりに取り組み、授業力向上に寄与した。 全担任が年に一度は研究授業を行い、授業力向上に努めることができた。 本年度より日課を変更し、会議の時間を確保したことにより負担が軽減されていると感じる。	A	平和な小規模校であり、落ち着いたよい学校である。子どもたちは、優しい集団の中で育っている。 先生がたは子どもたちに寄り添い、細やかな支援や指導を行っている。	今後も地域素材を生かした単元づくりを継続し、実践を積み重ねていく。研究発表校の授業見学や外部講師を招いた研修をとおして教師の力量向上を図り、あわせて地域とともに歩む学校づくりを推進していく。
	教師力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の生活面学習面や家庭の様子について、情報の提供や収集、タイムリーな対応を組織で図る。</li> <li>児童、保護者、地域のかた等に敬意をもって接する。</li> </ul>	A					
	地域や家庭との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童、保護者、地域のかた等に敬意をもって接する。</li> </ul>	A					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに上記のA・B・C・Dで評価】